

みなさんからの素敵な  
情報を待ってます！

### 春を迎える伝統行事

#### 武家屋敷で「豆まき」



2月3日の節分に、片倉家中武家屋敷「旧小関家」で恒例の節分の会が催されました。

今年豆まきされたのは、数え年42歳の厄年を迎えた白石中学校第31回卒業生の男性3人です。

かみしも姿に身を包んだ3人は、白石地方に伝わる独特のかけ声「福は内、鬼は外、天打ち、地打ち、鬼の目玉ぶつつぶせ！」という威勢の良いかけ声とともに各部屋に豆をまき、この一年の無事と幸福を祈りました。

### 童心に返って楽しみました

#### 手づくりかるた展示会



2月11日、壽丸屋敷で手づくりかるたやお手玉、おはじきなどに親しむ催しが行われました。

主催したのは、あしたば白石のサークルで、白石の民話を語り部として伝えていく活動などを行っている「白石民話の会」の皆さんです。

展示されたかるたやお手玉、豆本などは、会員の皆さんの手づくりのものばかり。参加者たちは、白石の名所旧跡をまとめた「しろいしいろは」や「方言かるた」などで、童心に返って昔懐かしいあそびに興じていました。

引退した貴乃花が最後の優勝を飾った日、怪我を押して土俵生命を賭けた姿を見て、賜杯を渡しながら小泉首相が、「感動した」と叫んだ。

一、白石では今、白石市生ごみ資源化事業所を建設中である。これは、生ごみを処理し、メタンガスを発生させることによって、熱資源に変えるシステムであり、農水省の補助事業の、実証実験事業として全国のトップを切っている。そのエネルギーを利用し、小学生の総合学習のために、親子の農園にしたいと考え、温室を二棟併設した。施設が稼働する前にバイオマスエネルギーの補填的な役割をする灯油を使って、温室で無農薬、有機栽培のいちごを



#### 川井市長の せせらぎトーク

### 感動した話

子供達に作ってもらった。そのいちごがすごく美味しい。東北農政局長と知事のところに持って行って、自慢した程である。

さて、この施設のペツトネームを付けることになった。担当課が持って来たが、エコパワー、エコファーム、バイオエコ等々あるが、どうもぼつとしない。そこで、いちごを作った小学生諸君から募集してどうかということになった。たちまち、大人とは全く違った発想のものが集まり、これを庁議に掛けてみたら、満場一致で「シリウス」に決まった。シリウスとは、天狼星で、ギリシア語で熱いという意味だそう。辞書を引いてみると、「大犬座の首星で、オリオン座

に続いて冬の空を飾る星。古代エジプトにおいて太陽暦の生まれる基準になった恒星として有名。」とのこと。ただその子供が名付けた理由は、「シ」は白石、「リ」はリサイクル、「ウ」はうまい、「ス」は素敵という語を合成したのだそう。 「ウ」はうまいなどは、いちごを食べた感想がそのまま出ている。そういえば、「うまいべや」という愛称もあった。二十一世紀の白石を背負う子供達は、なんと柔軟な発想の持ち主だろう。

二、ある日、OH！バンドスでさとう宗幸さんが「蔵王の歌」を歌っていた。着替えの手を止めて、ムネさんの歌に聞き惚れた。懐かしい思い出が頭を駆け巡る。地下足袋を履き、むしろを一枚肩に背負い、にぎり飯を持って蔵王を縦走した、あの頃の若く、意欲的であった姿が目に見え、ムネさんにハガキを書いた。

「蔵王の歌を聞きました。素晴らしい歌声に感動しました。蔵王町長と話をして、この歌をもう一度我々の唇に戻すことがで

きればと思っていました。」早速返事が来た。「蔵王の歌、放送直後から問い合わせあり。改めて、後世まで残る素晴らしい歌の力を思い知らされました。」蔵王の歌は正式には、「蔵王霊歌」という。

「蔵王霊歌」 作詞 刈田 仁  
作曲 末武 義雄

一 われら歌う みちのくに  
ああ燃ゆる火を 胸に抱きて  
ああ地に黙す ここに幾年  
高き想いの 胸にはげしく  
耐えてゆくもの

二 われら歌う みちのくに  
愛しき山あり 忘れじの山よ蔵王  
ああ国分けて 陸羽の空に  
ああ別れ咲く 二つの愁い  
若き命の 胸にはげしく  
深ければこそ この山にわれら歌あり